

岡田 晃

歴史に学ぶ

大阪経済大学客員教授・経済評論家

第七回 常識を超える改革で天下統一めざした織田信長

いち早く鉄砲を本格導入した先見性

前回の主人公・武田家の滅亡の始まりとなつた長篠の戦い（一五七五年）で、織田信長軍が鉄砲三千挺の三段撃ちで武田軍に壊滅的打撃を与えたことはあまりにも有名だ。鉄砲の数や三段撃ちについては専門家の異論もあるが、信長隊の鉄砲の数が当時の常識を超えていたことは間違いないだろう。

なぜ信長はそれほどの鉄砲を使うことができたのか。その答えは、①鉄砲がキーテクノロジーになると誰よりも早く時代の先行きを読み取つてい

た（先見性）②大量の鉄砲と火薬調達ルートを確

保し巨額の購入資金を用意できる経済力を蓄えていた（経済力）③兵士が日頃の訓練によって鉄砲射撃に習熟していた（兵農分離）——の三つだ。これもまた、当時の常識を大きく超えるものだった。常識を超える——これが、信長のキーワードである。

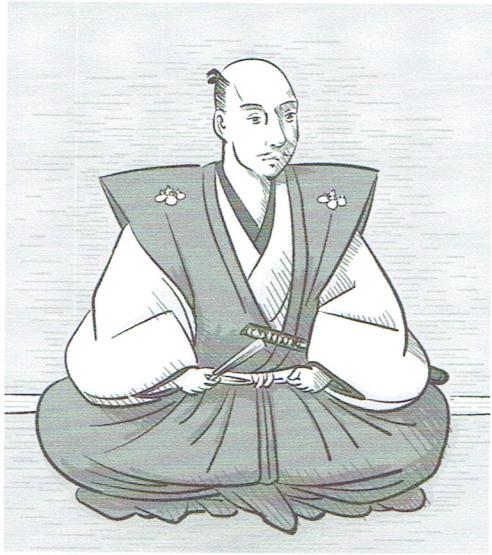
軍事力を支える経済力―― 抜群の経済的センス

だが最先端技術の導入には多額の資金が必要だ。それを支えたのが、上記②の経済力だつた。織田家は父・信秀の時代までに、木曽川河口の港町として栄えた津島（東海道随一の門前町）で港町だつた熱田という経済拠点を手中に収めていた。尾張を統一した信長は、美濃、伊勢、近江の「経済大国」を次々に攻略した。

鐵砲は当時の最先端技術だ。地方の中小企業・織田家が生き残っていくには、他社に先んじて革新的な新技術を導入することが不可欠だつたのだ。鉄砲という新技术を最大限に活用して織田株式会社はライバルとの戦いに勝ち抜き、ついに大企業・武田株式会社を打ち破つて、日本のトップ企業となつたのである。

ささらに堺も手に入れた。信長が足利義昭を奉じて上洛を果たした際、將軍となつた義昭からの「副将軍」の「内示」を断り、その代わり堺に代官を置くことを認めさせたのだ。南蛮貿易の港・堺には様々な物資とともに、鐵砲の火薬の原料である硝石や弾の原料の鉛も入つてくる。信長にとっては、足利政権のナンバー2になるより、堺のほうが経済的・軍事的価値が高かつたのである。とにかく信長の経済的センスは常識を超えてい

る。岐阜や安土の城下で楽市・樂座を開設したことはよく知られている。京を中心とする地域の関所も撤廃した。当時、各地の領主や公家、寺社、さらには地域の豪族に至るまでが勝手に関所を設け、通行料を徴収していた。大坂から京に行くのに、なんと四百近い関所を通らなければならなかつたという。そのため物価は跳ね上がり経済を疲弊させていた。信長はそれを一掃したのである。道路整備も進めた。当時の道路は狭く曲がりくねっていたが、これをまっすぐにして拡幅し、主要道路には松や柳の木を植えさせた。関所廃止と合わせ、物流を活発化させる効果は絶大だつた。こうして強大な経済力を築き上げ、これを基盤にして軍事力を強化していくのだつた。



兵農分離で次々と城を変える

軍事力強化のもう一つの秘密は「兵農分離」

と合わせ、物流を活発化させる効果は絶大だつた。こうして強大な経済力を築き上げ、これを基盤にして軍事力を強化していくのだった。

(前述③)にあつた。当時はどの戦国大名も戦いが始まるとなつて農民を兵士として動員していた。数の上では、兵士の主力は武士より農民だつたと言つていい。そのため戦えるのは農閑期に限られ、田植えや収穫の季節になると戦いをやめて引き揚げなければならなかつた。

ところが信長はカネを払つて農家の次男・三男などを常備兵として雇い、普段から軍事訓練を施していた。これも当時としては画期的なことだった。そのため信長軍の戦闘能力は高く、規律も優れていた。その上、季節を気にせずにいつでも戦

信長は岐阜城への入城以降、明確なビジョンを掲げた。「天下布武」である。武力で天下を平定し戦乱の世を終わらせるという意味だ。ここで言う「天下」とは日本全国のことではなく畿内を指しているとの専門家の指摘もあるが、それでも畿内を制することが武家のトップに立つことを意味していたことは確かだ。

実はこの時代、他の戦国大名は目の前の戦に勝つことに精一杯で、天下統一を明言する者はまだいなかつた。つまり「天下布武」というビジョン自体、当時の常識を超えるものだつたのだ。

い。だが現代の中小企業にとって、時代の変化を先取りした経営ビジョン、それに基づいた革新的な政策とオリジナリティのある戦略、差別化が重要であることは間違いない。

ただ最後に至つて明智光秀が謀反を起したように、信長のビジョンや改革の意義について部下が十分理解していなかつたフシがある。そうだとすれば、それもまた現代への教訓と言える。

は他にいない。それも兵農分離をしていたからこそ可能のことだった。兵農分離がなければ、兵士による暴行を避けて生きることはできなか

いのだから。信長の下では、新しい城下に多くの兵士が移り住み、そこに商人たちも集まつてくる。こうして城下町は発展し、信長の経済力の基

明確な経営ビジョン「天下布武」

盤をさらに強化した。

岡田 晃
(おかだあきら)

一九七一年，廣州醫學院附屬第一人民醫院

一九七一年、慶應義塾大學経済学部卒業後、日本経済新聞社入社。
編集委員を経て、テレビ東京に出向。「ワールドビジネスサテライト」(WBS)マーケットキャスター、同プロデューサー、NY支局長、「テレビ東京アメリカ(米国現地法人)」社長、理事・解説委員長を務める。二〇〇六年から現職。